

ガバナー月信 Governor's

Vol. 13

2022.6.30

Monthly Communication

Rotary International District 2690

《2021-22》



SERVE TO CHANGE LIVES

2021-22 年度地区ガバナー

岩崎 陽一

奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために

新緑

鳥取砂丘夕焼け

北栄町の風車と夕暮れ

未来のロータリーを築こう

Contents

- 2.....1年を振り返って 岩崎陽一 地区ガバナー
- 3.....地区運営を振り返って 吉田 博 地区代表幹事
- 4.....地区研修リーダー退任にあたって 伊藤文利 パストガバナー
- 5 ~ 10.....ガバナー補佐退任のご挨拶
- 11.....佐藤芳郎国際ロータリー理事ご就任祝賀会報告
- 12.....第14回全国RYLA研究会の報告
- 13.....第25回国際ロータリー日本青少年交換研究会・熊本会議の報告

- 14.....岡山北西ロータリークラブ創立30周年を迎えて
- 境港ロータリークラブ創立60周年記念式典
- 15.....備前ロータリークラブ創立50周年を迎えて
- 倉敷ロータリークラブ創立70周年プラス1 記念式典
- 16.....2021-22年度 シェアシステム 地区財団活動資金 (DDF) 使用に関する報告
- 17.....第6回諮問委員会・第4回ガバナー補佐会
- 18.....Make-Up後年間出席率

Rotary
District 2690



〔日本遺産麒麟獅子〕



1年を振り返って

2021-22年度ガバナー 岩崎 陽一

この度、2021—22年度のガバナーの任を無事、終えることができました。コロナ禍という厳しい状況の中で責務を全うすることができたのは、お世話になった全てのロータリアン、ロータリーファミリーの皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

思い起こせば、国際協議会（米国フロリダ州オーランド）に向けた2020年12月13日の壮行会が新型コロナウイルスの感染拡大の影響でWEBでの開催に決まり、突然激励会に変わり、国際協議会にリモート参加したのがガバナーとしての活動のスタートでした。

翌年2月28日の地区チーム研修セミナーはリアル開催で進めましたが、3月20日のクラブ会長エレクト研修セミナー（PET）をはじめ4月25日の地区研修・協議会、5月16日の地区会員増強・ロータリー財団セミナーはハイブリッドでの開催となりました。さらに1842名にご登録いただいた10月23—24日の地区大会も一部リアルとハイブリットによるYouTube配信で行われ、RI会長代理の晩餐会は実施できたものの2日目の大懇親会は断念せざるを得なくなり、残念な思いをいたしました。しかし、コロナ感染者もなく無事開催できたことは何よりでした。

このほか、2022年5月21—22日開催の第14回全国RYLA研究会には多数のご参加をいただき、本当にありがとうございました。

これも偏に研修リーダー伊藤文利パストガバナー、鳥取西ロータリークラブの皆様、ガバナー補佐11名の皆様の献身的なご支援の賜であり、深く感謝申し上げます。

さらにまた、公式訪問においては65クラブの会長・幹事・役員の皆様方のご努力により、私もロータリアンの長い歴史を持つ幅広い活動について改めて勉強させていただくことができました。

本年度のメインテーマ『未来のロータリーを築こう』～変化に対応しなければ未来は無い～のもと、各クラブが努力をしていただき、大変ありがとうございました。

振り返ってみますと、私のガバナー年度は感謝することばかりの誠に幸せな一年でした。逆に言えば、ガバナーという立場に立ってみて初めてロータリーの素晴らしさを認識できたのかもしれません。

親睦と奉仕の信念に基づき活動していただいているロータリアンは、純粋でかつ熱心であり、素直に喜び合う仲間であります。

RYLAの時に他地区の方から「第2690地区はまとまりが良く、皆さんが協力して行動される素晴らしい模範になるクラブ」とお褒めの言葉をいただきました。ありがたいことです。

最後になりますが、皆様、一年間大変お世話になりました。感謝・感謝の日々です。この経験を基に今度は私が地区にパストガバナーとして奉仕をしてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



地区運営を振り返って

2021-22年度 地区代表幹事 吉田 博

世界的なコロナウィルスのパンデミックによりアメリカフロリダ州オーランドで開かれる国際協議会がロータリー史上初のオンラインでの開催となりました。アメリカに行かない初のカバナー誕生であります。シェカール・メータRI会長テーマの「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」そして地区スローガン「未来のロータリーを築こう」の下、岩崎陽一ガバナー年度(ウイズコロナの地区運営)準備が始まりました。

計画していた事業の2021年2月の地区チーム研修セミナーを始めとして、3月会長エレクト研修セミナー(PET)、4月地区研修・協議会、5月地区会員増強・ロータリー財団合同セミナー、8月の雑誌広報教協イメージセミナーとつつがなく事業を行うことができました。ただし、コロナ感染予防のためPETSは懇親会なしの1日に短縮に、他の研修セミナーは対面とオンラインのハイブリッド開催と変更せざるを得なくなりました。

各事業にあたっては、地区研修リーダーの伊藤文利PGに全ての段取り、講師の紹介などなど多方面にわたりご指導いただきました。感謝申し上げます。

7月1日の岩崎陽一ガバナー年度の開始とともに65クラブの公式訪問が岡山西RCを皮切りに始まりました。コロナウィルス第4波の影響で例会を休んでいるクラブもありましたが、公式訪問の日程に合わせて例会を開いていただいたクラブも多々有り皆さまの友情にただただ感謝申し上げます。しかしながら8月後半から9月になりますと第5波による非常事態宣言により例会を開けないクラブが多くなり、公式訪問の日程を大幅に変更

せざる得なくなり、最終訪問クラブの益田RCは2022年5月6日となりました。

10月の地区大会は、昨年に続きコロナ禍の中での開催となりましたが、山下皓三国際ロータリー会長代理をはじめ多数の地区内バストガバナーご臨席のもと、1900近い登録と1100人を超えるご参加に深く感謝申し上げます。8月末までは懇親会を実施し懇親を深めたいと準備をして参りましたが、県の管理施設のため飲酒を伴う会食は許可出来ないとのことで、皆さまにお約束した懇親会を中止せざるを得なくなりました。お詫び申し上げます。

大会運営には田中章夫大会実行委員長のもと、ホスト鳥取西RC、コ・ホストの智頭RC、鳥取RC・鳥取北RC・鳥取中央RCの皆さまのご協力により無事に終了できましたこと深く感謝申し上げます。

地区大会が終了し、ガバナー公式訪問が終われば、少しは楽になるのではないかと考えていましたが、各クラブの周年事業、IMへの参加、全国RYLA研究会の開催など、6月末まで毎日曜日には、何かの事業があり、全く楽にはなりませんでした。

最後になりましたが、コロナ禍の中の岩崎陽一ガバナー年度の地区運営にご尽力を賜りましたバストガバナーの皆さま、ガバナー補佐の皆さま、各クラブの会長・幹事の皆さま、地区委員の皆さま、そして事務局の皆さまに心からの感謝を申し上げます。

1年間誠にありがとうございました。



地区研修リーダー退任にあたって

パストガバナー 伊藤 文利

研修リーダーとはどのような職種かという点を先ず皆様にお伝えすることから始めたい。RIでは全クラブに、全地区に、毎年の国際協議会に研修リーダーを置くように定めている。研修リーダーはそれぞれの組織の長（クラブであれば現会長、地区であれば現ガバナー、国際協議会であればRI会長）を助け、協力し、連絡を密にし、それぞれ長のメッセージ、意志、現実的目標・数値等を伝え、その受け持ち組織の発展を促すべく関係各位に努力するようお願いする。時には我々の経験を活かし、しかるべき進言を組織長にお伝えし、その組織の運営・強化に生かしていただく事もある。

さて、地区研修リーダーの仕事始めは私のお相手が岩崎ガバナーエレクト（GE）時代から始まる。二人は第1グループに属するクラブから輩出されているので意思疎通は十分すぎる位だ。本格的ガバナーの仕事はGE時代後半から始まり大半はGE時代に終わる。従ってGE時代が一番忙しい時間帯であった。主な会合はGEの時期に開催しなければならない地区主催の研修会、セミナーなどや地区大会を含め大小約10個以上の諸会合があった。そして各種会合には最低限2人以上の講師や各種複数の演者が必要とされ、その人探しと予約しておくことが急務となり、最初の難関は実際に講演講師を確保する事であった。なお、各種会合はRIが決めた必須の勉強会ばかりで講師選定の上でロータリー世界は人材豊富で講師発掘は容易であったが、相手の都合上簡単に決定できなかった。講師選定にあたり、どんな方との会合・セミナーでも希望する講師像として私と岩崎GE間には以下の了解事項があった。

- 1、講師はなるべく若い、入会歴の若い男女会員が望ましい。特に女性会員の話を聞きたい。
- 2、なるべく会員数の多い大クラブ在籍者がよい。その経験談が拝聴側に強い印象を与える。
- 3、どんな話でも最終的に会員増強に利するような内容を含めてほしい。

以上の合意の下で講師探しに奔走した。幸い、多くの講師はこちらの要望に応じて頂き、講演予定数か月前にはすべてのコマは決定済であった。お陰でどの会合でも立派な講師にご来鳥頂き、素晴らしい内容のご講演を拝聴し、参加して良かったと満足された会員は多かったと思う。

ガバナー年度が終わろうとした5月下旬、当初、予定になかったが、色々な方面から岩崎ガバナーに第14回全国RYLA研究会開催主管をしてもらいたいとの強い要請があり、最終的に岩崎ガバナーはRID 2690地区発展の為に引き受けられた。全国規模の同研究会はわが地区は経験したことがなく何もかも手探りで何とか開会にこぎつけた。それでも全国各地から約150人余りのロータリアン、若いRYLA会員が鳥取の地に参集して2日間に亘り意見発表や経験談、講演など皆さんが一生懸命勉強する姿はとても印象に残った。そもそも、RYLAは地区単位の行事で一般会員には関係が薄く、全国規模になっても単なる他地区イベント一部とみなしていたが、RYLAを深く取り入れている地区では会員はそれをロータリー生活の一部分のように深く関わっておられるのを知り、思いを新たに、わが地区も今後RYLAを育て、結果として多くのRYLA出身ロータリアンを育てたいものだと感じ、岩崎ガバナーのご英断に感謝したいと思う。

今年度もコロナ禍のもとで各種会合はリアルとオンライン両者を用意し、学びたい出席者の便宜を図った。それでもそれぞれに欠点があり、出席者には臨場感が薄く、その点出席者にはご満足頂けなかったと思う時いささか忸怩たるものがある。ガバナーご自身楽しみにしておられた慣例の国際協議会、国際大会両方を欠席されている事も残念であった。

ロータリーは常に変化し、進化している。我々はこれに遅れることなく常に学びの姿勢でロータリーと対峙していなければならない。1年間ご指導ご鞭撻に感謝します。



ガバナー補佐退任のご挨拶

第1グループ 谷口 宗弘
(倉吉中央RC)

退任のご挨拶を申し上げます。準備期間も入れると一年半、コロナ蔓延に振り回され本来の役割が果たせなかったのは残念でしたが、それでも個人的には充実した時間と貴重な体験、そして多くの学びを得ることが出来ました。その間、お世話になったすべての皆さまに、心から感謝申し上げます。

わたしはガバナー補佐就任前の昨年5月開催したzoomでの次期会長幹事を皮切りに、8月は対面の非公式訪問、10月はクラブ協議会参加を通し、皆さまからロータリーについての心配事を尋ねました。その幾つもの心配事を大まかに三つのテーマに纏め、後日、「井戸端会議」という意見交換の場をzoomで3回開催しております。会議にお付き合い頂いた皆さまに改めて感謝申し上げます。会議で

有意義な話し合いが出来たのは幸せなこと、同じグループ内でも複数のクラブがこうした意見交換を行うのは今まで経験がなく、クラブの「蘇生」に幾つかの良い意見を得ることが出来ました。詳細は「井戸端会議アンケート報告書」という形でご報告申し上げます。

役職を通して多くの知己を得、その方たちとの真摯な語らいから地域が抱える問題を自分なりに考え、同時に、わたしの予てからのライフワークとの絡みで、これから自分自身が目指す方向が明確になった心地です。ロータリアンの業は内にも外にも前進し続けなければなりません。今後も「誰もが入会したいと思えるロータリー」を目指し、末席からロータリーを楽しみたいと思います。



ガバナー補佐を終えるにあたり

第2グループ 小林 哲
(境港RC)

今年度第2グループのガバナー補佐を終えるにあたり一言ご挨拶をさせていただきます。一言で表現すると岩崎ガバナーのエネルギーに引っ張られた1年余りだったように思います。年度開始前からオンラインを使用したガバナー補佐会を毎週のように開催されガバナーの熱い思いに触れさせて頂きました。またガバナー公式訪問例会ではガバナー公用車のラッピングにも驚かされました。しかしながら今年もコロナ禍の中、ロータリー活動全般に非常に苦労した年でもありました。比較的落ち着いた感染状況であった第二グループの鳥取県西部地区においても年明け以後感染者が急増し、各クラブとも対応に苦慮されました。私自身も医師という職業柄、また県医師会の役員という立場上、感染拡大の対応に追われ

ました。そういった厳しい状況の中でも地区大会が開催されたこと、当グループとしては4月にI.Mの開催が可能であったことが喜ばしいことでありました。またグループ内の各クラブが工夫して感染拡大せずに活動を継続して頂いたことに感謝申し上げます。

長かったパンデミックも3年を経過してようやく光が見えてきたように思われます。かつてのスペイン風邪も約3年で終息しています。今後はスペイン風邪が季節性インフルエンザとして残っていったように新型コロナも同様な経過をたどっていくように思います。友末年度がコロナ明け元年となり社会生活やロータリー活動が正常な状態に戻ることを心から祈念して今年度の感謝の言葉とさせていただきます。



ガバナー補佐退任挨拶

第3グループ 櫻井 誠己
(松江RC)

2021—22年度も引き続き前年度と同様にコロナウイルス感染拡大の中でのロータリー活動でありましたが、岩崎ガバナーの力強いリーダーシップの下、地区運営が地区役員の皆様の協力により無事終了しましたことに敬意を表する次第であります。第3グループガバナー補佐を仰せつかり地区やRIの方針や組織について改めて認識する機会となり貴重な一年になりました。特にガバナー主導のもとでの補佐会をはじめ会長・幹事会等でのWEB活用は大変刺激になったと感じています。ガバナー補佐のメインの役割は地区ガバナーの方針を各クラブに伝えることだと認識しています。コロナ禍ではありましたがガバナー公式訪問に先立ちクラブ協議会を開催していただき有意義な意見交換をすることができました。

また第3グループの5クラブ訪問時には卓話の時間を与えていただきロータリーを勉強し直す機会となり感謝をしております。地区の方針であります会員拡大につきましては第3グループとしての会員数は昨年7月1日から5月末現在で20名増となり、特筆すべきは松江RCに衛星クラブ（10名）が誕生したことであります。この新設された松江ヤングリーダーズロータリー衛星クラブは、ロータリーの将来を担うメンバーとして期待され、また多様性が求められているなかで5名は女性会員であります。

岩崎ガバナーをはじめ地区役員、グループ内会長・幹事、ガバナー事務局の皆様、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



ガバナー補佐退任挨拶

第4グループ 江角 彰宣
(出雲RC)

この一年間 会員の皆様には、大変お世話になりました。特に第4グループの会長、幹事をはじめとする会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。私は、ガバナー補佐以外にこの地区の「地区拡大・会員増強委員」・「ロータリーカード推進委員」・「国際大会推進委員」の役割を与えられ昨年7月からこの3つの委員について多少なりとも活動を行いました。各クラブの成果はそれぞれですが、会員増強、ロータリーカードの推進が進行したものと感謝しています。そして、ヒューストンでの国際大会ですが今まで参加していませんのでこの機会にと思っていましたが残念です。そして私にとっての重点目標は、「IM」です。昨年の7月には講演者の方をすでに決めていました。この山陰の活性化のためにこの方に市民

会館で多くの方々にも聞いていただきたかった人です。講演はして頂きましたがコロナの影響でWEB開催となり特定の方々しか聞くことが出来なかったのが残念でした。今年度5月以降コロナは収束気味となりましたがロシアとウクライナの戦いはまだ収束しそうになく、世界において、社会環境及び経済環境が悪化しています。こういう時こそロータリアンが活動して世の中を明るく導くことができるように皆で知恵を出し合いましょう。使命と精神を歪めずに意識を喚起して全てのロータリーが活動できることを希求致します。最後になりましたが岩崎ガバナーのリーダーシップ及び地区運営の各役員の皆様には無事完了しましたことに感謝申し上げます。



ガバナー補佐退任挨拶

第5グループ 田儀 政司
(益田西RC)

2021-22年度も、昨年と同様にコロナウイルス感染症感染拡大の影響により、クラブの奉仕活動や例会開催が制限されることになりました。さらに、インターシティミーティングがオンライン開催となり、第3・第4・第5グループのロータリアンが一堂に会する学びの機会を失ってしまい、非常に残念な結果となりました。

しかし、このような状況に対応して例会をハイブリッド方式に変更され、多様な開催方法を選択・実施されたクラブもあります。これも、機会を捉えた一つの進歩だと思います。

また、本年度は、シェカール・メータRI会長より「ロータリー奉仕デー」実施という課題を与えられました。同時に提示された計画条件やガイドラインを

達成する事は、現況下においては困難が伴うものと予想されたのですが、直向きに努力を積み重ねられ、奉仕活動実施にこぎつけられたクラブもあります。

この様に、第5グループ内5クラブ、そして、全ての会員の皆様が困難を乗り越え多くの実績を残された事に対し、敬意を表します。

最後になりますが、当職の任期中、自らの勉強不足を改めて痛感致しました。これからも、研鑽を積んでいく所存でございます。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

そして、皆様のお力添えをいただき、本年度第5グループガバナー補佐としての職務を終えることが出来ました。心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。



ガバナー補佐退任挨拶

第6グループ 筒井 保太
(井原RC)

ガバナー補佐の委嘱状をいただいた時、まずガバナー補佐としての方針を決めました。ガバナー補佐を楽しむこと、そして第6グループの会長・幹事さんと仲良くなること。この2つの目標を自分に言い聞かせました。コロナの感染状況を判断しながらの会長幹事会や、クラブ訪問、そしてIM開催などはとてもスリルのあるものでした。

まず第6グループ会長幹事会ですがZoomとリアルを合わせて6回行いました。2ヶ月に1回のペースで顔を合わせていたのでどこであっても気軽に声をかけることができるようになりました。特にZoomでの会議はマスクなしで会うことができるのでお互いの顔を覚えてもらうのにとても有意義でした。

第6グループの各クラブ協議会に出席した際にはたくさんの質問をさせていただき多くのことを教えていただきました。それからは第6グループの各クラブが我がクラブのように思えるようになりました。ロータリーの会合ではコロナ感染は起こらないと自信がありましたので第6グループIMはリアルで行うことを最初から決めていました。コロナ前のIMと同じ約6割のメンバーが出席してくださいました。このように最初に掲げた2つの目標はクリアできたと思っています。最後になりましたがフランクでバイタリティーのある岩崎ガバナーには多くのことを教えていただき大変感謝しております。有難うございました。



ガバナー補佐退任のご挨拶

第7グループ 近藤 修六
(倉敷水島RC)

2690地区第7グループのガバナー補佐を1年間無事に勤め上げられるだろうか、不安な気持ちで受けましたが、光陰矢のごとしです。

岩崎陽一ガバナーの強いリーダーシップのもと、何とか責務を果たしたと思っています。

ガバナー公式訪問は、コロナ禍の猛威の時期もあり、8クラブのうち2クラブがWeb開催でしたが、6クラブはリアル開催が実行できました。しかし予定していた4月3日のIMは、講師予定者が倉敷市長という公人であり、会場キャンセルが1カ月前の3月3日までの猶予のため、3月3日時点で蔓延防止措置期間中であり中止という苦渋の選択をしました。Web開催も考えられましたが、懇親会が開催できない状態ではIMの大きな目的である、親睦と情報交換の役割が果せないこともあり紙面開催としました。3年連続の中止のためIM開催を心待ちにしていた多くの会員の皆様には大変申し訳なく思っています。



ガバナー補佐退任のご挨拶

第8グループ 長谷川 隆嗣
(津山RC)

皆様のサポートと信望のお陰で、大変やり甲斐を得られ、あっという間の任期でした。先が読めないコロナ禍では、スケジュールを遂げられない擬しさが常に募っておりましたが、地区大会や晩餐会は滞りなく催され、岩崎ガバナーをはじめ、スタッフの皆様の奮励あつてのことと心より敬意を捧げます。

さて、クラブ協議会では歓迎に恐縮しつつも、成果やご苦勞、コロナ禍ならではの発想の転換で、新たな切り口を見出されているエピソードが伺え、ガバナーと第8Gとの絆や協調の意義を改めて潜考いたしました。

また、多くのクラブが『会員増強』の必要性を重視なさっています。増強の鍵は、第一に退会者を出さないこと、その上で退会者や二世会員への入会促進に努めます。続いて、あらゆる世代やジャンルと

す。次年度は是非開催されることを期待しています。

また、会長・幹事会では環境保全活動が議題に上がりました。2690地区エリアでは倉敷市を中心とした「倉敷市・高梁川流域SDGsパートナー制度」を設けているため、ロータリークラブとしても第7グループ全クラブにSDGsパートナーに登録頂きました。また高梁川流域には第6グループも含まれるため、筒井ガバナー補佐にもお声掛けし、同じく全クラブに登録いただいたことは、ロータリーそのものがSDGs活動のため大変嬉しく思っています。

現在国際社会では、ウクライナ国の窮状が国連の定めたSDGsに大きな影を投げかけています。SDGsの目標の一つに平和がありますが、一日でも早く平和な国に戻ることをロータリアンの一人として強く希望しています。

一年間ご協力、ご理解心よりお礼申し上げます。

垣根なくフレンドシップを培う楽しさは、いかに浸透・拡充を図れるかにより『居心地の良い』クラブ作りに連鎖します。

2年ぶりのIMでは、佐藤芳郎RI理事エレクトの基調講演を生配信し、集えなくとも時間共有しました。先般の5クラブ合同例会懇親会は開催の運びとなり、本年度の締めくくりに相応しく親睦を深められ、久方ぶりに享受しましたあの雰囲気は活気を帯びておりました。

最後に、本年度は私にとりまして、極めて貴重な経験と原動力を与えていただきました。改めて謝意を申し上げます。今後も微力ながら、多彩な活動の機会創出に向けて、結束力を高めながらフォーカスしてまいります。



ガバナー補佐退任ご挨拶

第9グループ 堀川 辰也
(岡山北西RC)

2021-2022年度第9グループガバナー補佐退任にあたりご挨拶申し上げます。

今年度は、コロナ禍が始まって3年目の年度で、前2回のIMはロータリアンが集まっての開催が出来なかったため、何としても今年度は例年通り開催したいと思っていましたが、残念ながら蔓延防止措置の期間中となったため、急遽各クラブの会長・幹事様および関係者のみでの開催にさせていただきました。また、Webでの同時配信も行い、各クラブの会員の皆様には、Web上でのご参加をお願いしたところ、当日は100名近い方にご参加頂けました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、コロナ禍の中で、各クラブのクラブ協議会に出席させて頂きましたが、各クラブとも日程や開催方法にご苦労されながら開催できたこと、またご配慮頂いたことに御礼申し上げます。ガバナー補佐としての役目を十分果たせませんでした。各クラブの活動や増強の状況を聞かせて頂き、大変参考になりました。今後のロータリー活動に活かして参りたいと思います。

最後に岩崎ガバナー、地区役員および各クラブの皆様には、1年半に渡り、大変お世話になりました。ありがとうございました。



目的は事業開催にあらず ガバナー補佐退任挨拶

第10グループ 米林 真
(岡山北RC)

地区ガバナー事務局より本年度ガバナー補佐就任を伝えられた際、二つの事業を実施することが義務だと考えていました。ひとつはグループ内のクラブ協議会に参加して活動状況を岩崎陽一ガバナーに報告すること。もうひとつはIM(インターシティ・ミーティング)の開催です。

コロナ禍のため度々日程変更を余儀なくされながらも何とか各クラブ協議会に参加させて頂くことができました。IMについては早々に岡山丸の内ロータリークラブさまと協働で実行委員会を結成。1月30日ホテルグランヴィア岡山での開催を決定し、事業内容を決めてグループ内クラブの全員登録を頂戴しました。しかし刻々変化するコロナ情勢により実施が危ぶまれ、直前になってオンラインでの開催に変

更しました。

当日の会場には実行委員会スタッフ25名の他に岩崎ガバナー、友次ガバナーエレクトとそれぞれの代表幹事、講師だけをお迎えしました。計30人が控室で抗原検査して陰性を確認し、ようやく開催を実現。オンラインに変更したため130万円あまりの剰余金が発生し、実行委員会で協議した結果国際医療機関アムダに100万円、困窮家庭の子供に居場所を提供する「子どもの家」に30万円を寄付することになりました。

しかし任期が終わった今、二つの事業は手段に過ぎなかったと思っています。実現すべき目的はロータリー哲学の浸透とそれを体現する(私を含む)会員の育成だったとの感を強くしています。



ガバナー補佐退任のご挨拶

第11グループ 古川 武志
(岡山丸の内RC)

ガバナー補佐の任期が始まる辺りから、少し体調をくずし、任期が始まってから、各クラブの会長・幹事には話しをして、クラブ協議会等については時間を調整していただき、大変ご迷惑をお掛け致しましたが、快く対応いただいた事に、まずもってお詫びと感謝申し上げます。

今、感じておりますのは、ガバナー補佐をやって本当に良かったなあ という感覚です。

クラブの会長・幹事であれば、そのクラブ全般、あるいはそのグループの他のクラブの内容等について見聞きし、理解できると思いますが、補佐の役割はそれを一つ抜けたところにあり、2690地区の各グループの状況等を把握できるということです。

それはとりもなおさず、新しい知識が身を持って体験でき、勉強でき、またそれを今後の自分のロータリー活動に生かせるという事です。

何度か「目からうろこ」の体験をしました。もし、

補佐という役割の指名を受けたら、「いや無理です」と断らず、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

ガバナー補佐の重要な仕事の一つであるIMについて触れますと、今期WEBといえども開催出来て良かったなあ一言です。このコロナ禍、実施が不実施かで揺れた時期もありましたが、たとえWEBのみでも実施すると決めてから実施に向けての担当者各位のひたむきな努力には頭が下がる思いであり、ロータリークラブ会員の目標の向けての力をつくづくと感じました。本当にご苦勞様でした。

最後に、岩崎ガバナー、吉田代表幹事には色々指導いただき有難うございました。

心より感謝申し上げます。

また、11グループの会長・幹事の皆様にも色々ご迷惑をお掛けしたにもかかわらず、温かく接しいただき有難うございました。お礼申し上げます。

御 礼

岩崎陽一ガバナー事務所は、ガバナーノミニー就任以来足掛け3年にわたり第2690地区のロータリアンの皆さま、クラブ事務局の皆さまに大変お世話になりました。

事務所開設当初は、右も左も分からない状況でのスタートでしたので、皆さまには何かとご迷惑をおかけしたと存じます。

この3年間、伊藤文利地区研修リーダーを始め、バストガバナーの皆さまからご助言、ご指導をたくさんいただきました。地区財団事務所や各クラブの事務局の皆さまから多くのご協力をいただきました。

おかげをもちまして、100点満点とは言えませんが無事職務を果たすことができました。これもひとえに、地区の全ての皆さまのご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

地区代表幹事 吉田 博
岩崎陽一ガバナー事務所 一同



佐藤芳郎国際ロータリー理事ご就任祝賀会報告

地区副代表幹事 田中 章夫

6月26日、ANAクラウンプラザホテル岡山において佐藤芳郎パストガバナーの国際ロータリー理事就任の祝賀会が開催されました。

岩崎陽一ガバナーの提案で開催されたRI理事就任祝賀会は、当地区では初めてとなり地区をあげての祝賀会となりました。

当日は、パストガバナーの皆さまをはじめとして、岩崎陽一ガバナー、友末誠夫ガバナーエレクト、石倉貞昭ガバナーノミニ、ガバナー補佐、次期ガバナー補佐の方々、各クラブの会長、会長エレクトそして佐藤芳郎パストガバナーのホームクラブの岡山南ロータリークラブの歴代の会長の方々と計105名のご出席で盛大に執り行われました。

祝賀会は、佐藤芳郎RI理事エレクトならびに令夫人享子様のご入場から始まり、岩崎陽一ガバナーの挨拶、塚本博視祝賀会副実行委員長による

渡辺好政元RI理事からのメッセージの披露と進みました。

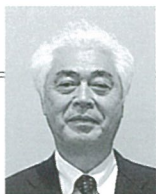
続いて、末長範彦パストガバナーから佐藤芳郎RI理事エレクトへ、岡山南ロータリークラブの大和豊子元会長から令夫人の享子様へと花束が贈呈されました。

佐藤芳郎RI理事エレクトから本日参集いただいた方々へ謝辞があり、地区の会員の皆さまに支えられてRI理事に就任することができたと感謝の言葉を述べられました。

祝宴は、鳥居 滋パストガバナーからお祝いの言葉と乾杯のご発声で始まり、和やかな雰囲気の中佐藤芳郎RI理事エレクトは各テーブルを回りご挨拶されていました。

閉宴にあたり延原 正パストガバナーからご挨拶があり、終始和やかな雰囲気のまま閉宴となりました。





第14回全国RYLA研究会の報告

第2690地区青少年奉仕担当幹事 小林 一
(鳥取西RC)

第14回全国RYLA研究会が、5月21・22日（土・日）の両日、鳥取市のホテルを会場にして開催されました。COVID-19のパンデミックによる影響から、対面とWebを組み合わせたハイブリッド方式の開催となりました。大会出席者は127名（うち対面84、Web43名）で、北海道から鹿児島県まで全国各地から多数の参加がありました。そして、関係者のご協力とご支援のお陰で、コロナ禍中ながら活発で実り多い全国大会とすることができました。

RYLA（ロータリー青少年指導者養成プログラム）は、14～30歳の若者を対象にして、3～10日間の集中研修を通じて、リーダーシップスキルと人格を養成するための集中研修プログラムです。クラブ、地区、多地区合同のどのレベルでも実施することができますところから、国内外で多様な形態を採って活動が行われています。全国大会は、都道府県を巡って毎年開催されています。

今年度は、前年の山形大会を継承して「RYLAの真髄」のテーマで開催されました。第1日目には、第2690地区青少年奉仕活動報告、特別講演、基調講演、第2日目には分科会、バズセッション、分科会発表に基づくフォーラムが実施されました。

特別講演は、第2680地区RYLA顧問・元RI理事の三木明氏により、「ロータリーはなぜRYLAをするのか」のタイトルで行われました。長年の活動によって培われた経験に基づき、RYLAが掲げる理想と役割について解説し、「RYLA学友とロータリアン、ライラリアンが一緒になって種をまく」ことの大切さを教示されました。

基調講演は、第14回全国RYLA研究会地区実行委員長・RIJYEM研修部門委員の黒田建一氏により、「RYLAの根底にある思想」のタイトルで行われました。RYLAプログラムは、第2680地区の故今井鎮雄（元RI理事）、及び故深川純一（同地区バストガバナー）をリーダーとする活動を通じ、規範とな

るセミナー形式が構築されました。セミナーの目的や方法の基底にある集団、エンカウンターグループ、ファシリテーション等の捉え方について解説があり、それらと学際的な関係にある臨床心理学や社会心理学、グループ理論、リーダー論等について紹介がありました。

第2日目の分科会では、3会場に分かれてそれぞれに設定したテーマに沿って発表と意見交換が行われました。各分科会のテーマとファシリテーターは、次の通りです。第1分科会「RYLAって何？」田中賢一氏、第2分科会「RYLAにおけるカウンセラーシステム」安行英文氏、第3分科会「これからのRYLAと危機管理」黒田建一氏。その後、各分科会を3班に分けてバズセッションが行われ、さらに、分科会発表に基づくフォーラムがもたれました。分会会では最初に、テーマに沿ったファシリテーターの発表がありました。その後、全国各地からの参加者により実践活動に基づいた意見交換が行われ、RYLAの現状と課題について理解を深めました。

全国大会に併せて開催された全国青少年奉仕委員長会議では、RYLAにとって重要な決定事項がありました。席上、第14回全国RYLA研究会実行委員会より「全国RYLA連絡会」の設置、並びに規約について提案があり、審議の結果、賛成多数で承認されました。これによって全国RYLA連絡会が発足し、全国研究会を軸に事務連絡機能を備えた組織体として活動することとなりました。また、本会議では来年、2022-23年度の全国RYLA研究会を北海道で開催することが決定されました。



第25回国際ロータリー日本青少年交換研究会・熊本会議の報告

第2690地区2023-24ガバナー 石倉 貞昭

6月18・19日の両日、熊本市にて第25回国際ロータリー日本青少年交換研究会が開催されました。第2690地区から2021-22年度役員として岩崎陽一ガバナー、友末誠夫ガバナーエレクト、小林一青少年交換委員長、光岡宏文青少年交換副委員長、そしてガバナーノミニの私石倉の計5名が出席しました。

COVID-19パンデミックによる影響から、RIの指示により2年間、青少年交換（RYE）プログラムの活動が休止されました。パンデミック下での社会生活によりやく安定化の兆しが見られるようになってきた国際情勢を踏まえ、RIは2022年7月からのプログラム再開を決定しました。日本でも活動再開に向けた動きが始まり、2022-23年度には全国から約80名の青少年交換留学生を海外に派遣すべく、準備が進められていることが報告されました。

本会議は、交換留学の経験を持つROTEXメンバーによる発表や意見交換を中心にして進められました。合わせて、パンデミック下での活動再開を直前に控えているところから、危機管理のための注意事項が丁寧に説明されました。第2690地区では、2023-24年度から活動を再開することとしていますので、それまでに危機管理対策を含めて入念な準備を行っておく必要があることを再認識しました。

本年の熊本会議・本会議では、第1日目に基調講演とパネルディスカッション、卓話の行事が行われました。本会議に先立ち「地区リーダー RYEプログラムセミナー」が開催され、実践経験に基づきな

がらRYEプログラムの説明を受け、その要点について学びました。第2日目には前日行事を総括する報告があり、来年度の第26回大会を開催する第2560地区（新潟）への研究会旗引継ぎがありました。第2日目の本会議に先立ち「全国青少年交換委員長・危機管理委員長合同会議」が開催され、RYEの活動再開に向けた危機管理（入出国水際対策、保険、YESSアプリ）に重点をおいた説明を受けました。研究会の中心行事である基調講演とパネルディスカッションでは、ROTEXメンバーである3名の女性が主役を務めました。講演者、並びにパネリストとして登壇した3名の女性は、交換留学生としてそれぞれフランス、カナダ、オーストラリアで学んだ経験を持ちます。交換留学を終えてからもROTEXに所属して海外交流を深め、再度留学したり、大学院に進学して海外学術研究に従事したりしています。交換留学生として学んだこと、留学後のROTEXによる活動、将来への夢や人生目標等について熱く語りかけてくれるメンバーから、強い情報発信力と優れた行動力を感じ取りました。そして、青少年交換への挑戦とその後のROTEXでの行動が、学識や経験のみならず人間力の形成に寄与していることを実感させられました。

熊本会議への出席を通じ、RYEプログラムが果たす役割、並びに、ロータリーによる青少年奉仕や国際奉仕の役割の重要性を改めて学ぶことができました。





クラブ創立30周年を迎えて

岡山北西ロータリークラブ 会長 岡本 浩三

我が岡山北西ロータリークラブは、1991年（平成3年）創立会員55名で、岡山北RCをスポンサーとして、発足。感染の影響を考慮し、本年5月8日、ホテルグランヴィアにて1年遅れて創立30周年記念式典の開催となりました。岡山県知事代理、小寺

弘城様、岡山市長代理、林 恭生様、2690地区ガバナー岩崎 陽一様をはじめ、バストガバナー各氏、県内外の16RC会長、幹事のご出席、更に20年来の友好の友、京都朱雀RC はご夫人も伴い23名の出席と多くの来賓のご出席を戴き、盛会となりました。

【記念事業】

- 1、西日本豪雨災害地区真備地区幼稚園に5月人形贈呈
- 2、倉敷市真備図書館に、絵本など図書購入費支援
- 3、後楽園能舞台鑑賞「栄唱の間」に椅子50客寄贈
- 4、岡山県犯罪被害者支援大学生ボランティア連絡会“あした彩”主催「犯罪被害者支援フォーラム」支援
*（岡山県警本部より、感謝状を戴きました）

【記念講演】 演題「至誠の人 山田方谷に学ぶ」

講師 元岡山県立美術館副館長、方谷研究会顧問
全出席者に“入門 山田方谷 至誠の人”本を進呈

渡辺 道夫氏



（祝宴）

祝宴に於いては、友好の友、京都朱雀RC、寄贈の月桂冠菰樽を来賓の皆様と鏡開きをしてお出席の皆様の輝く未来が開けることを祈念致しました。宴の中では、備中神楽北山社 神楽師 鳥越孝太郎氏に“国指定重要無形民俗文化財 備中神楽”を舞って戴き、“和”を以て貴となしの妙技で心を一つに、を誓い、またクラブ会員藤木季美子君の北西オーケストラ7名による演奏に聞き入り、穏やかに幕を閉じました。今後共、我がクラブは、伝統を繋ぎ、研鑽を重ね、奉仕の道を頑張って歩いてまいります。



境港ロータリークラブ創立60周年記念式典

実行委員会委員長 川田 一郎

当クラブは1963年5月29日、米子ロータリークラブのスポンサーの元に創立されました当時、同クラブには境港市に事業所を持つ会員が10名程在籍していたことで境港に新クラブ設立を望む機運が高まり、その会員が中心となって準備が進められ第2グループでは2番目に誕生したクラブとなりました。

【記念事業】

7月10日にオープンする境港市民交流センターに境港市出身の日本画家綾木いづみ氏の作品「COCON NEWBORN」を寄贈しました。

この作品は、昔ながらの伝統的な画材である岩絵の具を使い、奥行きのある深い色合いで独創的な世界観を表現し、観る人に生命のエネルギーを感じさせる素晴らしい作品です。境港市の新たな顔として市民の集いの場となる施設に相応しい作品であると確信して寄贈しました。

【記念式典】

令和4年5月14日（土）、佐藤芳郎RI理事エレクト、岩崎陽一ガバナー、勝部芳子米子RC会長他のロータリー関係者並びに境港市長、地元関係団体等の方々をお招きして夢みなとタワーで開催いたしました。

クラブ60年の歩みの放映、物故会員への黙祷の後、開式となり、来賓祝辞に続き公務で出席が叶わなかった平井鳥取県知事からの20分間に亙るビデオメッセージが放映され、コロナ禍における先進的な県政の取組と今後の展望について、貴重なお話を聞くことができました。

続いて、上記の記念事業の目録を受け取られた伊達境港市長から、市民交流センターの活用と市政の取り組みについての講演を頂き、最後に綾木氏の日本画や作品への熱い思いの記念講演で締めくくられました。

コロナ禍での開催となり祝賀会も行えず残念でありましたが、60年という歴史の重みを改めて気づかされる良い機会となりました。

関係各位には心より感謝申し上げます。





備前ロータリークラブ創立50周年を迎えて

備前ロータリークラブ 会長 草加 勝康

2022年（令和4年）5月22日、創立50周年記念式典並びに祝賀会を岡山ブラザホテルにて開催を致しました。多数のご来賓、ロータリークラブのガバナーをはじめクラブのメンバーの方々、関係者の方々にご出席頂き盛大に行われました。

備前RCは1972年（昭和47年）に岡山東RCをスポンサークラブとして創立されました。以来、数多くの先輩メンバーの方々そして現在のメンバーの方々のご努力によりロータリー活動並びにクラブ運営を行ってきました。50周年を迎えることが出来たこと大変嬉しく思うとともに、地域の皆様方、多くロータリークラブの方々のご指導、ご鞭撻を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

私は本年度のテーマを「過去に感謝し全員で挑戦するロータリー」と致しました。50年という長きにわたり数多くのロータリー活動を行い、現在の備前RCを作ってまいりました。その活動は多くの方々の人生を豊かにし、そしてメンバーの人生も豊かにしてきました。この素晴らしいクラブを作った先輩方に感謝し、多く

の関係者の方々にも感謝し、色々なロータリー活動に挑戦しながらクラブを発展させることが我々現メンバーの使命であります。今回その挑戦の一つとして人口減少の著しい備前市に若者を呼び込むために波静かな片上湾にシーカヤック、緑多き山に自転車を寄贈し、備前市の活性化を図る活動を備前市政と一緒にを行いました。少子高齢化への挑戦です。

これからも備前ロータリークラブは色々なロータリー活動に挑戦し、多くの方々の人生を豊かにすることができるよう努力していく所存であります。新たな50年に向けて挑戦を行なっていきますのでご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。



倉敷ロータリークラブ創立70周年プラス1記念式典「伝統は新たな形を創る」

倉敷ロータリークラブ 会長 中村 公彦

2022年6月28日、倉敷ロータリークラブ創立70周年プラス1記念式典を開催いたしましたところ、伊東香織倉敷市長、岩崎陽一国際ロータリー第2690地区ガバナーをはじめパストガバナー、並びに、スポンサークラブ、および、第7グループ各クラブの会長幹事など、ご関係の皆様にご臨席賜り、誠にありがとうございました。

倉敷ロータリークラブは、1950年9月7日、京都・岡山両ロータリークラブのスポンサーによって、仮クラブとして発足いたしました。

その後、同年10月7日、国際ロータリー第60地区所属クラブとして認定され、スタートいたしました。

以来、多くの方々の支えと、多くの先輩方のご努力により、70年を超える年月を歩んで参りました。

創立70年を迎える2020年、その歩みを振り返り、心新たに前進するため、創立記念事業を計画いたしました。新型コロナウイルスの発生と、その後の拡大を受けて二度の延期となり、この度やっと開催出来る運びとなりました。

たび重なる延期により、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。また、感染リスクを考え、県内関係者だけでの開催となりましたこと、重ねてお詫び申し上げます。

また、創立記念式典を挙げるにあたり、倉敷ロータリークラブ誕生にご尽力頂いた、京都・岡山両ロータリー

クラブおよび、今日まで、倉敷ロータリークラブを育てて頂いた全ての方々に対しまして、改めて深甚なる感謝の意を表します。

70年以上の歴史の中で、積み重ねられた先輩方の功績は、伝統となって受け継がれています。今ここに我々は、良き伝統を受け継ぎ、新たな形として後進に伝えることを誓うものでございます。

これからも我々は、ロータリーの奉仕の理想を追求し、年輪を重ねて参りますので、更なるご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ではございますが、倉敷ロータリークラブと共に歩んでいただく皆様の、益々のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、倉敷ロータリークラブ創立70周年プラス1記念式典開催の御礼ならびに、ご報告といたします。





国際ロータリー第2690地区

2021-22年度 シェアシステム 地区財団活動資金（DDF）使用に関する報告

（日本円金額は参考数値であり、地区補助金申請時のロータリーレート 1ドル＝109円で計算しています）

収 入	ドル	円
3年前の年次寄付額の50%	237,758	25,915,622
恒久基金収益の50%	27,681	3,017,229
前年度からのDDF繰越額等	35,710	3,892,390
合 計 ①	301,149	32,825,241

支 出	申請額		使用額	
	ドル	円	ドル	円
地区補助金：DG2223235(上限額 131,747ドル) *注1				
■クラブ提唱 奉仕プロジェクト *注2	100,831	10,990,579	89,055	9,706,995
32件・・・大社RC 新見RC 岡山城RC 玉島RC 玉野RC 倉敷東RC 倉敷水島RC 井原RC 鳥取北RC 総社吉備路RC 鳥取RC 岡山北西RC 倉吉RC 松江南RC 江津RC 倉敷南RC 岡山東RC 松江RC 岡山丸の内RC 米子RC 益田西RC 出雲南RC 鳥取西RC 米子東RC 岡山中央RC 境港RC 岡山岡南RC 津山西RC 総社RC 出雲RC 大田RC 津山中央RC				
■臨時費 *注3	22,000	2,398,000	7,794	849,546
災害支援プロジェクト(新型コロナウイルス関連含む) 2件・・・岡山東RC 岡山後楽園RC *注4				
■奨学生オリエンテーション会場費 *注5	700	76,300	0	0
■補助金管理セミナー会場費・印刷費	7,500	817,500	7,787	848,783
■補助金管理運営費(補助金額の3%まで申請可)	716	78,044	770	83,930
小計	131,747	14,360,423	② 105,406	11,489,254
グローバル補助金				
■プロジェクト：GG2231628 倉吉RC提唱PCU(プライマリケアユニット)寄贈プロジェクト(スリランカ)	19,500	2,125,500	19,500	2,125,500
DDF寄贈				
■ポリオプラス基金			50,000	5,450,000
■第2690地区ロータリー平和センター基金			25,000	2,725,000
■ロータリー災害救援基金			50,000	5,450,000
小計	19,500	2,125,500	③ 144,500	15,750,500
合 計 ④ = (②+③)			249,906	27,239,754

差 額	ドル	円
2022-23年度への繰越額(①-④)	51,243	5,585,487

*注1 地区補助金の申請上限額は(3年前の年次寄付額の50% + 前年度の恒久基金収益の50%) × 50% です。

*注2 各クラブ提唱奉仕プロジェクトおよび災害支援プロジェクトの詳細は2021-22年度地区活動報告へ掲載します。

*注3 補助金の20%までの臨時費(使途未定)として申請することができます。

*注4 昨年度に引き続き、災害支援プロジェクトを募集しました。

臨時費(使途未定)と申請済みプロジェクトの残額を、災害支援プロジェクトに使用しました。

*注5 奨学生のオリエンテーションは、オンライン研修のため経費の発生がありませんでした

第6回諮問委員会

■2022年5月29日(日)11:15～14:00

■会場：ホテルニューオータニ鳥取「はまなすの間」

1. 協議事項

- ① 規定審議会補助金支払について

2. 報告事項

- ① 2022学年度ロータリー米山記念奨学生について
- ② ウクライナ緊急救援金について
- ③ 地区バストガバナー会 会計報告
- ④ 規定審議会報告
- ⑤ 地区大会報告

- ⑥ 2021-22・2022-23年度合同地区危機管理委員会次第（案）

- ⑦ 地区行事予定について

- ⑧ その他 ガバナー会事務局からの案内

3. 地区ロータリー財団事務所より

4. 友末誠夫地区ガバナーエレクト事務所より

5. 石倉貞昭地区ガバナーノミニ事務所より

6. 閉会

第4回ガバナー補佐会

■2022年6月12日(日)11:15～14:00

■会場：ホテルニューオータニ鳥取「はまなすの間」

1. 地区ガバナー挨拶（岩崎陽一ガバナー）

2. 地区研修リーダー挨拶

（伊藤文利地区研修リーダー）

3. 報告事項（吉田地区代表幹事）

- ① ウクライナへの緊急支援金 送金について
- ② 地区大会決算報告

③ ガバナー補佐報告

（各ガバナー補佐より 一年を振り返って）

- ④ その他 My Rotaryの登録・ロータリー賞について

4. 閉会

2021-22年度 Make-Up後年間出席率

クラブ名		出席率 (%)
第1グループ	智 頭	88.72
	倉 吉	95.88
	倉 吉 中 央	87.37
	倉 吉 東	96.53
	鳥 取	99.36
	鳥 取 中 央	79.59
	鳥 取 北	81.91
	鳥 取 西	88.68
第2グループ	境 港	92.17
	米 子	68.37
	米 子 中 央	80.73
	米 子 東	79.85
	米 子 南	85.10
第3グループ	松 江	92.60
	衛 星 ク ラ ブ	97.00
	松 江 東	94.24
	松 江 南	91.09
	松 江 し ん じ 湖	82.79
	隠 岐 西 郷	89.27
第4グループ	平 田	91.90
	出 雲	88.93
	出 雲 中 央	83.26
	出 雲 南	96.75
	大 社	90.82
第5グループ	江 津	87.63
	浜 田	85.46
	益 田	85.69
	益 田 西	83.76
	大 田	94.03
第6グループ	井 原	84.99
	笠 岡	94.23
	笠 岡 東	94.54
	新 見	85.80
	総 社	81.02
	総 社 吉 備 路	83.69
	高 梁	87.13
	玉 島	100.00

クラブ名		出席率 (%)
第7グループ	児 島	84.30
	児 島 東	99.38
	倉 敷	99.90
	倉 敷 中 央	86.42
	倉 敷 東	88.79
	倉 敷 南	79.98
	倉 敷 水 島	84.12
	倉 敷 瀬 戸 内	79.25
第8グループ	真 庭	84.36
	美 作	91.21
	津 山	82.60
	津 山 中 央	97.92
	津 山 西	87.59
第9グループ	備 前	80.44
	岡 山	94.50
	岡 山 東	92.67
	岡 山 北 西	82.72
	岡 山 後 楽 園	83.84
第10グループ	岡 山 旭 川	68.17
	岡 山 中 央	78.02
	岡 山 北	73.66
	岡 山 南	85.28
第11グループ	玉 野	87.62
	岡 山 備 南	95.94
	岡 山 城	91.68
	岡 山 岡 南	78.03
	岡 山 丸 の 内	77.19
	岡 山 西	88.60
第11グループ	岡 山 西 南	92.12

第2690地区2021-22年度
メイクアップ後平均出席率

88.73%

